



第 19 号(最終号)

76 期の



— 内容 —

- 学年主任より
- 担任・副担任からのメッセージ
(思い出や感想、アドバイスなど)
- 卒業式当日について



学年主任より

3 年間の高校生活もいよいよ終わりを迎えます。

私たち担任団は学年のスローガン『76 期の WA』を合言葉に皆さんと 3 年間過ごしてきました。76 期の皆さんは、私たちの 3 つ想いである「学びの WA」「仲間の WA」「思いやりの WA」を体現して成長してくれたなと今振り返っています。そのような皆さんの姿をみて日々元気をもらってここまで来ることができ、合言葉をともにして一緒に過ごせたことに感謝しています。

さて、皆さんは 3 年間過ごした岸和田高校から旅立っていきます。いろんな新しいことにチャレンジする姿が目に見えます。さまざまな困難も経験して大きく成長していくのだらうと思います。皆さんの将来には、私たちが想像もできない可能性が広がっています。『76 期の WA』で過ごした 3 年間の経験をこれからのステージで役立ててください。

皆さんの心の中にいつまでも『76 期の WA』があり続けてくれたら幸いです。これから先もずっと、心の中でつながり続けましょう。皆さんの健康と幸せを願っています。

(76 期学年主任 伊藤)



担任からのメッセージ（思い出やアドバイスなど）

俣野 先生

まず、1月31日の授業では、まだ受験のさなかにも関わらず、また手書きにも関わらず、アンケートに協力いただき、ありがとうございました！書いていただいた内容は、今後の授業の糧にします。ひとつだけまとめのコメントをさせてもらおうと、地理の魅力は「何か1つの要素が、何かにどんどん繋がっていく感覚」・「複数の知識が有機的につながり、ひとつの結論が理解できたという感覚」であり、「資料・データを読み取る力やその分析能力、解釈の観点を得ること」です。これは自分の中でもその時々で変化しているのですが、現在の俣野の結論です。いかがでしょうか？授業では2年生の時だけの関わりだった人、もしかしたら地理にネガティブイメージを感じさせてしまっていたら、ごめんなさい。地理はたいへんおもしろく、魅力的な科目だと思っていますが、俣野の伝える力のなさによるところです。「知識・技能を磨き、入試での得点力アップ」と「興味・関心・おもしろさ・魅力を伝える」は授業の永遠のテーマなので、今後も自分の授業スキルを含めた授業力アップのために、まだまだ引き続き精進します。ありがとうございました。

ところで、思い返せば、76期のメンバー1人1人は自分自身にとって、「全力で取り組もう！全力で準備しよう！」とさせてもらえる存在でした。少しずつ年齢を重ねる過程で、そういう存在はとてもありがたく、貴重な存在となっています。授業では学年の半分の160人ほど、プラスして1年担任の時のクラスのメンバーや、3年間様々な行事やその他何らかで関わった人、もしかしたら、俣野との関わりはほぼなかったかもという人もいるかもしれませんが、この場を借りて76期のすべての人にお礼と感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございました！

一方で、岸和田高校で76期のみなさんと関わることになったのも、居住地とはまったく異なる岸和田高校にたまたま赴任したこと、同じ時期に転勤してきた先生のなかでも、たまたま76期の担任団となったこと、そもそも教員になったことも含めて「何かの縁であり、ひとつの巡りあわせ」だと考えています。ただし、思い返せば、節目節目の選択は大事であったとは思いますが、自分のなかで、「あの時、この選択をしたからだ」と思うことはいくつかあります。みんなも人生の節目で、「あのとき、この選択をされていてよかった」と思えるような選択をしたいですね。

それからもうひとつ、やっぱり人生周りに救われたことだらけです。この3年間も、関わった生徒のみなさんにも、担任団の先生方をはじめ、岸和田高校の先生方にも、多くの場面で助けていただき、様々な協力いただき、手を差し伸べていただき、今があります。みんなも人とのつながりは大切に…、また自分自身の何かの時に、力を貸してもらえるような存在になれるよう、そう思ってもらえるような行動を取れる人でありたいですね。

それでは、今後とも自分自身納得のいく、充実した人生を送ってください！

3年間ありがとうございました！（≧▽≦）

伊藤 先生

76期の皆さんと過ごした思い出の中で特に印象に残っているものを挙げます。

1年生の奈良の遠足、2年生の京都の遠足、3年生の淡路島の遠足。3年間天候に恵まれて、皆さんのさわやかな笑顔に癒されました。

2年生の修学旅行。皆さんと一緒に全力で楽しむことができました。みんなで歌って踊った「WAになっておどろう」が一番の思い出です。

3年生での文化祭と体育祭。皆さんの成長の集大成を見ることができました。

卒業してまた集まったときに、思い出話と卒業後の話を聞かせてもらえることをすごく楽しみにしています。これからの活躍を期待しています。

高野 先生

発行されるタイミングでは、少し早いかもしれませんが、ご卒業おめでとうございます。

多くの皆さんは、まだこの後に入試が控えていることかと思います。志望している大学に進めるかな？ということが一番の関心の人も多いでしょう。もちろん、それはとても大事なのですが、合格はゴールではなく、あくまでスタートです。

面接練習などでも、高校生活で頑張ったことやそこから学んだことを聞いたりしますが、もちろんその答えは人それぞれですよね。「大阪府立岸和田高等学校から参りました、〇〇です。本日はよろしくお願ひします。」「岸和田高校出身ですか。わかりました。面接は以上となります。」なんて面接、あるわけないですよ？大事なのはやっぱり、出身校がどこかではなくて、そこでみなさんがどんな風に頑張ったかだと思います。それは、大学でも同じことですよね。

4月からの、みなさんそれぞれの新しい生活を、実り多いものにしてってください。

林 先生

3年間担任として、また生活指導主担として、皆さんと一緒に学習してきました。すれ違うたびにやたらと注意を受けて鬱陶しかった人もたくさんいるでしょう。私としては岸和田高校で3回目の担任となり、慣れているところもあれば、本学年特有の事象（主にコロナ関連）も多く、学年の先生方には数限りなく助けていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

今皆さんの多くは志望校に向けて懸命に学習をしているでしょう。体調には気を付けて欲しいところですが、個人的には徹底的に追い込んでほしい。それは「悔いの残らないように」ではなく、「自身の望む結果を得るために」です。今できていないことが何か、それを解消するために何をするか、繰り返し反復して自分の弱点と最後まで向き合ってください。その経験が皆さんを大きく飛躍させるきっかけになると私は思います。

ところで皆さんの学年を担当した裏で、以前に受け持った学年の同窓会がありました。当時私が繰り返し指導を行った生徒が数年後に話しかけてくれ、成長した姿を見せてくれるのはこの上なく嬉しく、感激したことを覚えています。皆さんを担当した教育実習生の中にもその学年の子たちがおり、皆さんの中にもまた岸和田高校に戻ってくる生徒もたくさんいることでしょう。そのとき私は岸和田高校にはいないと思いますが、いずれどこかで会えることを願っています。

最後に一つだけ、私のクラスでは口を酸っぱくして伝えています、大学の可否報告は忘れず必ず行うこと。これは3年間皆さんを育ててくれた岸和田高校に対する最大限の礼儀です。今後のことで頭がいっぱいになるのは当然ですが、それをサポートしてくれている存在を忘れてはならない。皆さんの責任ある行動と、今後の成長を強く願っています。

中野 先生

Time flies like an arrow.

みなさんにとって、岸和田高校での3年間を思い出す時、その始まりの日はいつですか。私の場合、76期担任団が発足し、初めて8人で集まった日のことを思い出しています。まだ見ぬ未来の76期生のことを思いながら、どのような学年にしていきたいか、どのようなことを大切にしていきたいかなど、学年のビジョンについて長い時間をかけてじっくり話し合いました。その時に決まったスローガンが、みなさんご存じ「76期のWA」です。

それからの日々は、あっという間で、気が付いたら卒業まであと少し…です。目まぐるしい毎日を過ごす中で、あの日交わした言葉、描いた未来が、いつも心のどこかにあり指針となってくれたような気がします。「76期のWA」のみなさんのおかげです。

さて、みなさんが76期生として岸和田高校で過ごす日々も、いよいよ本当にあと少しとなりました。76期はあと少しで解散ですが、これからそれぞれの未来へはばたくみなさんにとって、「76期のWA」が心の故郷の一つになれば幸いです。いつの日か、「76期のWA」で、大人になったみなさんと再会できることを楽しみにしています。

最後に、この言葉を贈ります。

“The bad news is time flies.

The good news is you're the pilot.”

—Michael Altshuler

未来は、自分次第。passengerではなく、pilotとして、大空へ離陸してください。➔

それでは、Bon Voyage!

筒井 先生

高校を卒業する皆さんへ、

おめでとうございます！高校生活の集大成とも言えるこの日を迎え、皆さんの努力と成長が称賛される時です。私は、老荘思想の言葉「無用之用」に焦点を当てて、皆さんにメッセージをお伝えしたいと思います。

高校生活は、学業や部活動、友人との関係など、さまざまな経験を通じて貴重な時間でした。しかし、その中には一見して無駄に見えるような活動や経験もありました。友人との会話やクラブ活動、趣味に没頭する時間などは、直接的には成績や将来のキャリアには直結しないように見えますが、実は心を成長させ、人間性を豊かにする重要な経験でした。

高校卒業を機に新たなステージへ進む皆さんへ。これから先も、新たな挑戦や経験が待っています。何事も一見無駄に思えることもあるかもしれませんが、その中にはあなたの成長や学びが隠れています。勇気を持って新しいことに挑戦し、自分の信念を貫くことを忘れずにください。そして、あなたが得た経験や知識を大切にし、自分らしく生きていくことを心がけてください。

最後に、高校時代の思い出や経験を大切にし、これから先も「無用之用」を大切にしながら、前進して行ってください。あなたの未来が明るいものであることを心から願っています。再度、おめでとうございます！

ここまでの言葉はチャット GPT に「老荘思想の言葉の一つである『無用之用』を使いながら、高校を卒業する生徒へのメッセージを 500 字程度で書いてください」と指示して数秒でできたものです。一切手直しもしていませんが、ほとんど私が伝えたいメッセージを書いてくれています。

これから先皆さんが生きる社会では、こうしたこと以外でも至るところで当たり前のように AI を使いながら生活を送ることとなるでしょう。そうした中で効率や合理性ばかりを求め続けていった場合、どのような未来になるでしょう。あまり想像したくはありませんね。

皆さんの人生を決めるのは、他人ではなく、自分自身です。人の言葉に素直に耳を傾けながらも、自分のアイデンティティは自分で持っている人になることを願っています。

さて、まだ受験真っ最中の皆さんにとっては「それどころじゃない！」と言われることを覚悟しながらこれを書いています。もっともなことだと思うので、受験生に向けてのメッセージです。

受験勉強と大学は皆さんの人生の大きなターニングポイントの一つです。自分の目指す大学に合格することは勿論、最後まであきらめずに頑張るその努力自体にも意味があると思っています。悔いの残らないよう過ごしてください。

最後に、皆さんがやりたいことに全力で取り組み、自分にとって「いい人生だ」。と思える日々を過ごせることを願っています。

三好 先生

みんなに伝えたいことを思うがままにつらつら書かせてもらいました。

①みんなにも知ってほしいポジティブになれる言葉

If you like water, you already like 72% of me.

②大学受験の思い出

仲の良かった友達 3 人と後期試験まで頑張り、大学生の夏休みに高校の卒業旅行に行ったこと。第一志望には受かりませんでした。やりきった満足感がありました。

③大学でして、良かったこと

勉強、サークル。でも1番は留学。自分のスピーキング力とリスニング力に自信がなかったの、一歩踏み出すのに滅茶苦茶勇気を振り絞る必要がありましたが（Enter を押すのにどれだけかかったか!）、今では一歩踏み出してよかったと思っています。あの時の自分、グッジョブ!

④大学生活を送る上でのアドバイス

色々ありますが、とにかく自分から行動しましょう。高校は HR クラスがあるので部活などに入っていないなくても、喋ったり、分からないことを教えてもらえたりする人ができやすいですが、多くの大学では自分から踏み出さないとそうはいきません。高校の講習で出会った他のクラスの人に話しかけることができますか? できないと思った人はぜひサークルに入りましょう。

ただし、「この人あわないな」「このサークルあわないな」と思ったらすぐに離れましょう。ニュースからも分かるように、世の中にはビックリするような人がいます。同じことが「会社」でも言えそうですね。君子危うきに近寄らず。

⑤物騒な世の中を生き抜くためのアドバイス

自分は柔道をしているので、護身術に興味があります。You-Tube で一番印象的だったものを紹介します。元特殊部隊隊員の方が日本大学危機管理学部の特別講演で話していた内容になります。

みなさん、「護身術」と聞くと何を思い浮かべますか? 「殴る」「蹴る」「関節技を極める」などでしょうか? こういったものは基本的には最後の最後の最後の手段になります。護身において1番大事で、まずしなければいけないことは……動画ではすぐに教えてくれていましたが、もったいぶって最後に書くとしめます(笑)。2番めに大事なことは「逃げる」こと。格闘技を2~3か月やるよりも毎日200mダッシュを10本やる方がおそろしいとおっしゃっていました。次は「隠れる」こと。そして、最終的に「脅威の排除」(攻撃・制圧)に移る。

さて、その講演者が考える「護身において1番大事な、まずすべきこと」に戻ります。それは「敵を作らないこと・人に嫌われない所作」です。これを聞いた時、目からうろこでした。なるほど。僕は「逃げる」かなあと思いましたが、2番めでした。

人間関係だけでなく、スマホやイヤホンによって周囲の情報をシャットアウトして、わざわざ自分から危険な状態を作らないように、ともおっしゃっていました。僕自身、電車ではスマホばかり見えています。ホームに着き人が乗ってくる時ぐらひは、顔をあげようと思います。

宮崎 先生

私自身、今までの人生は「人」に恵まれてきた人生でした。記憶のある幼稚園の頃から今現在に至るまで、一緒にいてくれる人たちはいつも力を貸してくれるし、助けてくれる。一緒にいて楽しいし、アホなこともいっぱい言える。私自身は大した人間ではないが、友人や家族といった周囲の人たちの力で今ここにいます。

岸和田高校の76期の担任をすることになったとき、一緒にやっていく担任の先生方や副担任の先生方はどのような人なのかな、クラスや授業を持つ生徒はどんな雰囲気かなと、楽しみと不安を抱えながら76期の入学を迎えました。76期を見てきた先生方はとても熱心で協力的で、何より76期の成長を第一に考えてたくさんいろいろなことを準備している先生ばかりでした。76期の生徒は不器用ながらも一生懸命で、小さなことから全力で取り組み、何より楽しそうに岸高ライフを過ごそうとしていて、担任をしている私自身がその姿を見て毎日楽しく過ごしていました。

やっぱり、私は先生も生徒も含めて「人」に恵まれているのだなと強く感じました。おかげで本当にこの3年間は担任として楽しく過ごせました。もう一回やれと言われたら喜んでやれます。ただ、正直言うとその環境に甘えて過ぎている自分もいるなども感じています。私自身の悪いところです。反省してまだまだ成長しなければいけませんね。

【76期のWA】はこの3年でとても強くつながり、これからもそのWAは切れることはきっとないでしょう。

これから先、社会へ出る76期生へ伝えたいこともたくさんあります。

ヒトは、地球上に誕生してから今まで常に成長・進化をし続けてきました。脳みそも大きくなり、どんどん賢くなっています。その最先端にいるのがこれから社会に進出するみなさんです。その身に着けた賢さをもってどんどん成長して行ってください。ただ、成長・進化をしていくのは自ら道をどんどん切り開いていったからです。これから先、大なり小なり選択を迫られることがたくさんあります。その時に選ぶ選択は、より道が広がる「やる」選択をしてください。「やらない」選択をすることは成長を止めることになり、感情を持つヒトとして強い後悔を残すことになります。

まだまだ伝えたいことがたくさんありますが、3年という長い時間があったのに伝えきることができませんでした。「やる」選択をする場面はたくさんあったような気がするけど、選ばなかったのかなと思うと後悔が残ります。

最後に、とあるプロレスラーの名言を書いておきます。私の伝えたいことです。

「この道を行けばどうなるものか 危ぶむなかれ 危ぶめば道はなし 踏み出せばその一足が道となり その一足が道となる 迷わず行けよ 行けばわかるさ」

これから先は長いです。それをどう楽しむかです。一生懸命楽しんでください。



担任以外の先生からのメッセージ

小崎 先生

高校生活3年間お疲れ様でした。みなさんにとってどのような3年間だったでしょうか？この先、さまざまなことが待っていることと思います。楽しいことばかりでなく辛いこともあるでしょう。そんなとき、きっとこの3年間の思い出がみなさんの力になってくれるでしょう。

今後のみなさんの活躍を期待しています！

植野 先生

「日々努力 日々勉強」

最後まで努力 続けましょう

焦る気持ちが出る時もあるでしょうが勉強は続けていきましょう

それが実を結ぶ時が来ます

また 机に向かってだけが勉強ではなく色々な経験も人生の勉強になります

頑張ってください

塚本 先生

授業でも言ったかもしれませんが、ここで2つみなさんに贈る言葉を紹介したいです。

まず「無事は名馬」ですが、普通に生活できていること、あたりまえのようなことが実は素晴らしいことなんです。例えば無事に試験会場に到着して、最後まで受験できたということだけでも、すごいことで目標の半分は達成しているのです。

つぎに「人間万事塞翁が馬」です。私自身のこれまでの人生を振り替えてみても実感できる言葉です。一見悪い出来事が起こってもめげずに進み続けていると、必ずいいことに出くわします。あの悪い出来事だと思っていたことが実はこういう望ましいことにつながっているのだということを体験すると思います。

いよいよお別れの時期が近くなってきましたが、健康に留意していい人生を歩んでください。

Enjoy yourself!

岡田 先生

まず、久しぶりに岸和田高校に戻ってきて、みなさんに出会えてとても嬉しかったです。短い期間でしたが、本当にありがとうございました。生物が生きているしくみを学ぶことは、生物の生きる

「声」を聴くことだと、僕は思っています。わたしたちが自分の胸に手を当ててみれば、心臓がいつも拍動しています。トクントクンと、「あなたは生きていますよ」と、わたしたちに語りかけるように「声」を出しています。わたしたちのまわりにいる生物も、生きることで「声」を発しています。どんなに辛いことがあっても、わたしたちのからだは「声」を出し、生きようとしている。まわりの生物もわたしたちのまわりに存在して、いつだって生きる「声」を出している。まず自分自身が生きている「声」に、そしてまわりの生物ひとつひとつが生きている「声」に心を留めることで、その「声」は、わたしたちの血液がからだじゅうを常に循環するように、どんなときもわたしたちに生きるための力を与え続けてくれます。そして、生態系で物質や命が循環するように、わたしたちの「声」も生きるための力として常にまわりの人へ、まわりの生物へと巡ります。大切な人やまわりの生物、そして自分自身の「声」をしっかりと聴きながら、これからもともに精一杯生きていきましょう。

長谷川 先生

これから先、今受験で感じているような後悔することや不安なことなどにたくさん出会います。

それでも、「今やれること」に全力を注いでください。過去は過ぎたもので、未来はこれから出会うものです。今、この瞬間を一生懸命に生きていく。そうすれば、きっと振り返るとよかったなと思えることも増えて、未来もきっとより良いものになるはずでしょう。

この3年間をいつか振り返ったときに「よかったな」と思えるような、時間を歩んでください。また、成長した皆さんにお会いできることを楽しみにしています。僕も日々成長できるように頑張ります。

日西 先生

現在も勉強すればするほど学力は伸びています。

試験当日までしっかりと勉強を続けましょう。

石原（涼） 先生

1年間お世話になりました。1年間、早いですね。ありがとうございました。

自分の人生を決めるのは、自分自身です。これからいろいろなことがあるかと思いますが、「どうせうまくいく」の精神で、進んでいってください。

くれぐれもご自愛ください。自分を大切にできないと何もできません。

まずは自分を大切にすることから、始めましょう。

みなさんそれぞれが幸せであるようお祈りしています。

曾野 先生

大学受験の時、私は皆さんのようには本気で勉強できなくて、思った進路にはつけませんでした。友人の多くが浪人したこともあり、私は行くことになった大学で真剣に勉強してみようと思いました。すると留学したいという目標ができ、初めてこんなに勉強したと思えるほど英語を勉強しました。ところがいざ留学すると、それを勝るほど勉強した2年間だったように思います。とても晴れがましい気持ちで卒業式を迎えた時、週末に会うといつも”Have a good weekend!” ととびきりの笑顔で言ってくれた友人の一人が、“Have a good life.” と泣きながらハグしてくれました。「確かに、もう一生会えないかもしれないんだな」ということを急に実感し、その学生生活の貴重さや出会った人々を思い、既に恋しくなるような複雑な気持ちでいっぱいになったのを鮮明に覚えています。

岸高に来て、76期のWAに入り、ピカピカの一年生だった皆さんに出会いました。温かい”WA”の中で過ごした一年間が本当に楽しくて、みなさんが可愛くて、間に出産でのお休みをいただきましたが、どうしても卒業までに戻りたいという思いで戻ってきました。今年、特に一学期は子どもが熱を出してお休みしてしまう日もあったのですが、次の日に行くと「先生、お子さん大丈夫ですか」と言ってくれた優しい人がいて、本当に心の中で涙が出るほど嬉しかったです。卒業していく皆さんに、言いたいことは山ほどあるのですが、一番は、いつまでもその優しさを持ち続けてほしいなという事です。どんな時代になっても、どんな職業についても、“人間性”が最も大事だと私は思います。人の痛み気付いてその痛み少しでも寄り添える人たちであってほしい。それが、絶望の淵にある誰かを救うかもしれません。そしてそんな人にはきっと、自分が苦しい時や困った時に、それを理解し寄り添ってくれる人ができるはずだと、私は思います。能力と可能性に満ちた皆さん、強く優しく、自分の道を進んでいってください。

皆さんとの授業は本当に楽しくて、岸高祭や体育祭で見せてくれる76期生の能力と熱さには感動を覚え、「戻って来られて本当に良かった」と思い続けた日々でした。本当にありがとう。

卒業おめでとうございます。Have a good life.

水野 先生

これから、何回も決断や選択をしなければいけないときがやってきます。そのときどのような決断や選択をしても、自分を信じて生きていきましょう。でも、うまくいくときもあれば、そうじゃないときもあります。頑張っって前に進むことも大切ですが、ちょっと一休みしたり、引き返したりしてもいいと思います。無理せず、背伸びせず、自分らしく。

みなさんの幸せを祈っています。

徳野 先生

この「学年通信」の発行が2/8ということで、皆さんの多くは「共通テスト」の自己採点の結果も判明して国公立大学への出願の手続きも終了し、あるいは私立大学の受験の最中かと思います。いわば、これまでの人生の中でも、多分**最大のチャレンジのまっただ中**にあるということです。

このチャレンジの前半戦を振り返って、順調にその力を発揮できた人は、その流れで後半戦にさらに突き進んでいきましょう。ただ、多分大部分の人たちは、多かれ少なかれ何らかの悔いを残して後半戦に挑まなければならない状態ではないかと思います。ですが、いま述べたように”大部分の人たちが”何らかの悔いを残しているのです。後半戦に臨むにあたっては、前半のミスをいつまでも気にせず、**後半戦に集中して**どれだけ自分の力を発揮できるかでその結果が左右されます。

このことは、入試だけの話ではなく、今後の人生のいろいろな重要な局面について言えることです。就職・仕事・対人関係・地域生活・結婚・子育て・・・ミスのない局面、完璧な人間なんていないです。問題はそれをカバーする力を普段からどれだけ努力して培っているかだと思います。国公立2次試験を受験する人はあと2週間少し、orさらには後期入試までなら一か月余りあります。18年間の人生の集大成として、これからの2週間～一か月を悔いのないように過ごしてもらいたいものです。**最後まであきらめずに、ガンバレ!!!**



卒業式当日の予定（概要）

詳細に関しては、すでに配布してあるプリントを確認してください。

日にち 3/1（金）

時程 9：10 浪切ホール開場

9：30 自分の座席に着席完了

10：00 開式

11：20 卒業生退場 → 岸和田高校のHR教室へ → LHR

※卒業式終了後に浪切ホールで写真を撮る時間はありません



学年通信編集担当より

今回が最後号となる学年通信ですが、実はみんなが入学する前の2月には動き出していました。そういった制作秘話（?）、裏話（?）をさせてもらおうと思います。

① 考査の講評について

学年通信のメインディッシュ。ある科目を複数の先生で担当していると、テスト作成者の想いや設問のポイントを受講生徒全員に届けるのは難しくなります。担当者が 1 人の場合は、テスト返却の際に解説すれば受講生徒全員に解説や想いを届けることができますが、この場合でも期末考査後は長期休暇が明けるまで授業がないということが多く、解説を届けづらい場合もあります。

そういった問題を解消するために、考査の講評を書いてもらっていました。耳の痛い内容も多かったと思いますが、採点や成績処理で忙しいにもかかわらず、みんなのために激励やアドバイスを書いてくださっていました。先生方、ありがとうございました。

② 先生方の紹介

年度の始まりには、新しく『76期のWA』に加わった先生方を紹介していました。生徒全員がその先生方から授業を教わるわけではないので、直接かかわったことがない先生もいたでしょう。しかし、そういった先生方も、分掌の仕事や学年の仕事、教科の仕事で、間接的にみんなを助けてくださりました。生徒のみなさんも、ぜひそのことを知っておいてください。

③ 学年主任の言葉

真のメインディッシュは考査の講評ではなくこちらかもしれません。学年主任の言葉。お忙しい中、毎号毎号何かメッセージを伝えるのは大変そうでした。「何かメッセージがあればお願いします。何かあればいいんで」と言っても、伊藤先生からは「書きます！」という返事が返ってき、いつも印刷日までに寄稿してくださっていました。伊藤先生、3年間ありがとうございました。

④ 形式（紙での配布）について

印刷せずに Classroom に投稿するという形も考えましたが、採点や成績処理で忙しいにもかかわらず寄稿してくださった先生方の想いを少しでも多くの生徒に読んでもらいたかったので、手間と資源がかかるが、紙で印刷するという形式にしました。毎号毎号、生徒全員分印刷し、8クラスに分けてくださっていた、庄田先生を含む副担の先生方、ありがとうございました。

⑤ 学年ブログについて

新型コロナウイルスにより保護者の方が行事に出席することがさらに難しくなり、少しでも学校のことをお伝えするために、学年ブログ『76期のWA』を開設しました。投稿内容には学年通信も含まれており、考査の講評から「こういう風に考えればこの問題は解ける！」、「こういうことを意識しながら勉強してほしい！」、「こうすれば次のテストではいい点が取れる！」といった教員の強い気持ちが保護者の方にも少しでも伝わっていれば嬉しい限りです。毎号毎号学年ブログに学年通信をアップしてくださっていた林先生、ありがとうございました。

以上、学年通信の制作秘話（?）、裏話（?）でした。学年通信を再度読み返したいという人は学校のホームページから学年ブログにアクセスしてみてください。3月中ぐらいはまだブログにアクセスできると思います。ちなみに中の人（?）は三好でした◎